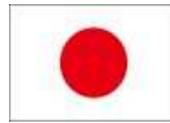


「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Hansan Middle School



三次市立川地中学校

交流授業

学年：第1学年

単元名：Unit 4 Our New Friends

(Here We Go! ENGLISH COURSE 1)

ねらい：韓国の生徒と英語を使って互いの文化について伝え合うことができる。



フリートーク中の生徒の様子

iPadを使ってプレゼンテーションをしている様子

活動内容：

①日本の紹介（グループ）

事前に相手校から日本のことについて何が知りたいかを聞き、そのテーマに沿ってプレゼンテーション資料を作成し、グループに分かれて発表を行った。生徒は、不安を感じながらも、伝わるように精一杯工夫して伝えようとしていた。

○準備時間：3時間 ○グループ数：4つ

○交流内容：広島のある有名な食べ物、日本で有名な音楽、ペット、年中行事

②学校生活やまじりの紹介（グループ）

学校での過ごし方をプレゼンテーション資料で発表した。発表後はフリートークの時間を設け、互いの学校のことや文化について理解を深めた。生徒は、韓国語を教えてもらったり好きな歌手について尋ねたりと会話を楽しんでいった。

○準備時間：3時間 ○グループ数：3つ

○交流内容：学期数、学習する教科、1日の流れ、給食の様子、登下校の様子
テスト（試験）等

全体を通して、「話したい」、「知りたい」という気持ちをもって取り組むことができた。また、完璧な英語でなくても会話ができる、自分の気持ちが伝わる嬉しさや楽しさを感じることができている様子だった。交流授業後は「次こそはもっと話せるようになりたい！」と意欲をもって授業に臨む姿が見られた。

《接続方法：ZOOM》

大切にしたこと

- ・相手を知らうとすることが大事だと生徒に伝えること：「韓国の生徒がどんな生活をしているのか」、「学校にはどのようなルールがあるのか」等、相手のことを知りたいという気持ちを高め、「聞きたいことは英語で聞くしかない！」と英語を学習する必然性を持たせた。
- ・とにかくリアクションをすること：オンラインでのやり取りだからこそ、英語を使うことが苦手な生徒にも、言葉以外にもコミュニケーションの手段はあると伝え、互いにリアクションをすることを大切に。聞こえなかったら聞き直さなければならないため、「しっかり聞かぞ！」という姿勢を引き出すことができた。
- ・自分の力でコミュニケーションを図ること：困ったときに使える表現を載せたシートを持たせ、自分の力でやり取りを続けることを促した。

交流を終えて

生徒の声

- ・最初は緊張したけれど、韓国の生徒と好きな歌手などの話をして盛り上げられたのでよかった。次はもっといろんなことを聞けるように練習したい。
- ・韓国語を教えてもらったり、日本語を教えたりした。でも英語で聞けないと分からないので、これからの英語の授業を頑張らないといけないなと思った。
- ・全然話せなかったの、次はもっと話せるようになって交流を楽しみたい。
- ・韓国へ行って、実際に会って話してみたいなと思った。とても楽しかった。来年も同じ生徒たちと交流したい。

先生の声

- ・生徒に「自分が伝えたいことを伝えられた」、「コミュニケーションが楽しい」という気持ちを持たせることができ、話す自信につながられたことは、とてもよかった。教員にとっても、よい経験となった。
- ・生徒アンケートの「外国の人とコミュニケーションを取りたいか」という設問で、交流授業前は全員が否定的回答だったのに対し、交流授業後には全員が肯定的な回答になった。英語を使ったコミュニケーションを図ることを通して、本当に聞きたいこと、話したいことを伝え合えたことで、生徒の英語学習やコミュニケーションに対する意欲が更に高まった。